

令和4年度

教育委員会

教育行政点検・評価報告書

(対象：令和3年度事業)

防府市教育委員会

令和4年8月

は　じ　め　に

近年、急速に進む人口減少・高齢化や技術革新・グローバル化の進展など子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。さらに今後の社会は、人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会の実現に向けた技術革新が急速に進んでいます。こうした中、防府市教育委員会では、令和3年3月に策定された「第5次防府市総合計画」に合わせて、社会情勢の変化や施策の進捗状況を踏まえ「第2次防府市教育振興基本計画」を策定しました。

「第2次防府市教育振興基本計画」では、「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」を基本目標として、「知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進」「地域ぐるみの教育の推進」「一人ひとりがきらめく生涯学習の推進」「安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進」「郷土の文化・伝統の継承と創造の推進」を施策の5つの柱とし、それぞれの教育分野における重点施策を掲げ、その施策に沿った事業を実施することとしています。

重点施策の各事業の執行状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会内の各課において自己評価を行うとともに、学識経験者をはじめとする3人の外部評価者から意見を求め、教育行政点検・評価報告書として作成しました。

本市教育委員会といたしましては、本市における教育の推進目標に沿った各重点施策がどのように展開され、どのような進捗状況にあるのかを、この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進を図ってまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 令和3年度教育委員会の重点施策等の点検・評価	
1 教育総務課	2
2 学校教育課	8
3 生涯学習課	44
4 文化財課	57
■ 学識経験者の総評	63

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

防府市教育の推進目標に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを教育委員会自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

令和4年度の点検・評価対象は、令和3年度「防府の教育概要」に掲げている教育委員会の重点施策事業とします。

3 点検・評価の方法

事業についての概要・実績等を、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」で評価したうえで、事業の各評価項目の評価点数を基に総合評価のランク付けを行います。

4 評価（評価の視点）

評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
評価の視点 点数	<ul style="list-style-type: none"> 事務や事業の達成状況 課題等への対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性 本市教育への寄与度合 	<ul style="list-style-type: none"> 投入資源(経費、人材、時間)の妥当性 経費削減の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項についても十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

5 総合評価

評価	AA	A	B	C
	優良	良好	努力	反省
点数	16・15点	14～12点	11～9点	8～4点

■ 令和3年度教育委員会の重点施策等の点検・評価

〔1〕教育総務課

◎ 基本方針

教育の様々な課題に柔軟かつ迅速に対応し、教育委員会及び教育部各課の連携のもとに円滑な教育行政の推進に努める。

学校施設は多くの児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるため、構造体の耐震化に引き続き、非構造部材の耐震化を進めながら、今後は老朽化した施設について学校施設長寿命化計画に基づき、児童生徒が安全で安心のできる教育環境の確保を図る。

市立図書館については、「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」に沿って、図書資料・視聴覚資料の充実と情報提供サービスを推進する。また、市立図書館と学校図書館のネットワークシステムの活用及び学校司書の配置により、学校図書館の充実をめざすとともに「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、児童生徒等の読書活動の推進を図る。

◎知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

(1) 学校図書館の充実と読書活動の推進

事務事業 (予算事業名)	関係機関との連携による学校図書館活動の充実 (学校図書館活用推進事業、図書館ネットワーク事業)
事務事業概要	学校図書館管理システムの運用により、蔵書の適切な管理と、学校図書館を利用した学習活動の活性化を図る。 また、学校図書館と市立図書館が連携し、資料の有効活用を図る。 授業に直結する図書の整備や蔵書の適正な更新により、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能充実に努める。
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	市内小・中学校の学校図書館管理システムを活用して、学校間で図書や資料の貸借を行った。 市立図書館が学校図書館の選書会及び学校支援図書の貸出支援をした。

評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3
	<p>授業における学校図書館の活用について、コロナの対応が落ち着いてきたことから活用回数が回復してきており、加えて学校図書館管理システムの活用が浸透してきたことから、学校間での資料の貸借が387冊から486冊に増加した。</p> <p>また、市立図書館が学校支援の取組を継続的に行ってきたことから周知が進み、各支援制度の利用が増加した。</p> <p>学校支援図書(R2年度2,883冊 ⇒ R3年度4,239冊)</p> <p>図書館の新刊本等を使った選書会(R2年度6校 ⇒ R3年度11校)</p>				
令和4年度事業の課題・改善点	<p>市内の小・中学校図書館の所蔵情報を一元化した学校図書館管理システムの活用により、資料の共有化と利活用を更に進める。</p> <p>市立図書館から学校図書館への選書会用資料の支援の拡充や、学校支援図書を更新することにより、児童生徒の学習活動に必要な図書を充実させるとともに有効活用を図る。</p>				

事務事業 (予算事業名)	学校司書の配置 (学校図書館活用推進事業)				
事務事業概要	<p>学校図書館の充実のため、学校司書の資質向上を図るとともに、学校及び図書館担当教諭との協働を進める。</p> <p>学校図書館コーディネーターを配置して、学校教育課との連携により、授業における学校図書館の一層の活用を促進し、児童生徒の資料・情報活用能力の向上を図る。</p>				
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>学校司書の研修・情報交換により連携を強化した。</p> <p>学校図書館コーディネーターが学校図書館を訪問し、学校図書館活用事例集を作成・配付し、学校や図書館担当教諭に情報を発信した。</p>				
評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3
	<p>学校司書同士の連携を強化し、各学校図書館の環境や取組についての情報を共有することにより、学校図書館の環境が向上した。</p> <p>学校図書館コーディネーターが学校司書に対してきめ細かく指導・助言をしたことにより、学校司書の資質が向上した。</p> <p>学校図書館コーディネーターが学校を訪問し、学校や図書館担当教諭に情報を発信したことにより、各学校図書館担当教諭と学校司書が連携して、様々な取組を行うことができた。</p>				

令和4年度 事業の課題・ 改善点	学校司書同士の連携をさらに強化すること、学校図書館コーディネーターが学校司書へきめ細やかな支援をすることによって、学校図書館の効果的な活用を促進する。
------------------------	---

◎一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1) 図書館の充実と読書活動の推進

事務事業 (予算事業名)	図書館利用者サービスの充実 (図書館運営事業)					
事務事業概要	指定管理者制度を導入した市立図書館において、適正な運営とサービスの向上を図る。 令和2年度策定の「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」に沿って、図書館サービスの向上を図るとともに、「防府市図書館協議会」において、進捗状況を検証する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	コロナ禍による2度の臨時休館中も対応可能な予約資料の貸出や予約・リクエストの受付を行った。 タブレット端末やWi-Fi環境を導入した。 デジタル機器の初心者向けにタブレット講習会を開催した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	コロナ禍による臨時休館中も対応可能なサービスを提供することができた。 タブレット端末やWi-Fi環境を導入することにより、利用者の利便性を高めるとともに、図書館の利用促進につながった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	図書館サービスの向上について、防府市図書館協議会での点検・評価を図書館運営に反映させるとともに、「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」に沿った適切な指導を行う。					

事務事業 (予算事業名)	「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づく、子どもの読書活動に係る各種事業の実施 (図書館運営事業)					
事務事業概要	令和元年度策定の「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に沿って、小・中学校及び関係機関等との連携を図り、子どもの読書活動を推進する。 「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」を実施し、図書館資料を活用した学習の啓発を図る。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>「ビブリオバトル」の中学生大会を初めて開催した。</p> <p>「防府市 図書館を使った調べる学習コンクール」を実施した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>中学校との連携により、「ビブリオバトル」中学生大会を初めて開催し、好評だった。</p> <p>「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」については、応募点数は少なかったものの昨年よりは増加してきており、応募作品は意欲的な作品が多かった。</p> <p>応募点数 (R元年度 76点 R2年度 4点 R3年度 27点)</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>図書館資料の活用を促進するため、「防府市 図書館を使った調べる学習コンクール」について積極的に周知する。また、令和4年度から、郷土(山口県や防府市)に関連した優秀な作品に、特別賞として上山満之進賞を授与する。</p>					

◎安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

(1)安全・安心な施設整備、教育環境の確保

事務事業 (予算事業名)	<p>学校施設の整備 (小学校施設整備事業、中学校施設整備事業)</p>					
事務事業概要	<p>安全で安心して学べる環境を確保するため、「防府市学校施設長寿命化計画」に基づき、少人数学級化を見据えた長寿命化改良工事を計画的に実施する。また、学校施設を適正に維持管理するための改修工事を進める。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>防府市学校施設長寿命化実施計画の見直し 富海小中学校下水道接続工事 玉祖小学校校舎屋上防水工事</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	<p>今後5年間の事業を進めるための基本となる実施計画を策定したことにより、老朽化した施設の長寿命化改修を計画的に進めることができる。</p> <p>また、施設の適正な維持管理のための改修工事についても、予定通り着手、完了することができた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>「防府市学校施設長寿命化実施計画」に基づく改良工事の確実な実施に向けて、設備の更新等施設の適正な維持管理に必要な改修工事も計画的に行う必要がある。</p>					

事務事業 (予算事業名)	学校施設非構造部材の耐震化 (屋内運動場天井等落下防止対策事業、校舎等外壁改修事業)					
事務事業概要	非構造部材の耐震化対策として、屋内運動場の照明器具や体育器具等の落下防止対策や校舎等外壁の改修を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	(1)屋内運動場照明器具、体育器具等落下防止対策工事 ・右田小学校屋内運動場 (2)校舎等外壁改修調査・設計業務委託 ・牟礼南小学校校舎					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	改修工事及び調査・設計業務委託について、予定どおり実施することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	非構造部材の耐震化として、屋内運動場の照明器具等落下防止対策を進めているが、今後は複数校の工事も進められるよう、必要な財源の確保に向けて関係部署と協議を進める。					

(2)教育機会の確保

事務事業 (予算事業名)	修学支援の充実 (教育総務課管理経費)					
事務事業概要	学習機会の確保に向け、高等学校入学準備金や奨学資金貸付などにより修学支援の充実を図る。 また、平成28年度に創設した定住促進奨学金返還支援制度の周知を図り、若者の本市への定住をより一層促す。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	奨学金制度については、従来の募集チラシの配布や市広報、ホームページを活用した周知に加えて、より効果的に周知するため、進路決定時期に合わせた募集チラシの配布を行った。 高等学校入学準備金については、中学校を通じて保護者への周知を行った。 《令和3年度 貸付実績》 ・一般奨学金貸付 ⇒ 大学生等16人に貸付実施 ・定住促進奨学金貸付 ⇒ 一般奨学金貸付者14人に貸付実施 (卒業後市内に定住する意思を持つ者に対し、一般奨学金と併せて貸付するもの) ・高等学校入学準備金貸付 ⇒ 保護者8人に貸付実施					

	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3	3
評価	<p>経済的な理由で高等学校等に入学が困難な者の保護者に対する支援、また大学等での修学が困難な者に対して支援をすることができた。</p> <p>令和2年度に行った貸付金額の増額や返還期間の延長などの奨学金制度の見直しにより、申請者が大幅に増えた。</p> <p>(R2 年度申請者 8 名⇒R3 年度申請者 22 名)</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>制度改正による改善点をわかりやすく整理し、より効果的な周知を行う。</p> <p>貸付者の貸付条件の認識不足により、貸付後に取り消しとなった案件が発生したため、貸付者へ貸付条件等の周知徹底を図る。</p>					

外部評価者の意見	<p>全般に着実な成果をあげている。</p> <p>特に市内小・中学校図書館の所蔵情報を一元化した学校図書館管理システムの活用が増え、学校支援図書の数と学校間での資料貸借冊数がともに増加したことは素晴らしい。</p>
外部評価者の意見	<p>ビブリオバトルを行う事により、活字離れが進んでいる児童生徒たちにとって書籍に対する考え方への前向きな変化に期待でき、図書館利用者の増加に期待したい。</p> <p>市内学校施設の照明が、学校により差が無いように全校均一となるよう耐震化対策と同時に進めるべきである。</p>
外部評価者の意見	<p>各事業ともに昨年同様もしくは成果が上がっていることは評価できる。</p> <p>学校施設の整備については、予算もあるが、子どもたちの安心・安全な学校生活に欠かせないことなので、早急な実施が望まれる。</p>

〔2〕 学校教育課

◎ 基本方針

学校教育を生涯学習の基礎としてとらえ、「豊かな人間性」と「確かな学力」、そして「健康・体力」を備えた児童生徒の育成をめざした教育を推進する。

◎知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

(1) キャリア教育の推進

事務事業 (予算事業名)	計画的な進路指導の充実 (予算なし)					
事務事業概要	キャリア教育全体計画に基づき、職場見学や職場体験学習を、児童生徒の発達段階に応じて、組織的・計画的に実施し、勤労観・職業観の育成を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	職場見学や職場体験学習の実施校は、小学校で17校、中学校3校である。また、全ての小・中学校でキャリア教育全体計画を作成しており、基礎的・汎用的能力の育成をめざし、キャリア教育を系統的・計画的に実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	早い段階から、将来の夢の実現を目指して、系統的にキャリア教育に取り組むことにより、個に応じた進路選択が可能となり、キャリアプランニング能力を高めることができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	ほとんどの生徒が自分に合った進路選択をすることができているが、進路未定のまま卒業した生徒もいる。すべての児童生徒が目標を定め、納得のいく進路に進むことができるよう、進路決定が危ぶまれる生徒に対して早い段階から相談を行う。併せて、キャリア・パスポートを活用し、よりきめ細かなキャリア教育を推進していく必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	小中高連携によるキャリア教育の推進 (予算なし)					
事務事業概要	キャリア教育で育成する力を明確にし、学校での生活や学びに意欲的に取り組む児童生徒を育成できるように、キャリア・パスポートを異校種間で確実に引き継ぎ、系統的・計画的な取組を実施する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	児童生徒の社会的・職業的自立に向け、「基礎的・汎用的能力」の育成のために学校・地域連携カリキュラムを活用した校種間連携を図るとともに、特別活動や総合的な学習等でキャリア・パスポートに収集する資料を精選した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	各学校でキャリア教育年間計画に基づくキャリア・パスポートの効果的な活用と校種間連携が図られた。また、学校運営協議会や小中合同研修会等の機会を通じて、学校・地域連携カリキュラムを活用した児童生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成に向けた具体的取組について協議できた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成のためのキャリア・パスポートの効果的な活用方法について、異校種間で共有し、系統的・計画的な取組を実施する。					

事務事業 (予算事業名)	体験的な学習活動の推進 (予算なし)					
事務事業概要	「ほうふみらい塾」などを通じ、商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制のもと、社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	商工会議所や職場体験学習受け入れ事業等との連携体制のもと、社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図った。また、市内各種関係機関の協力を得て、「ほうふみらい塾」での体験的な学習活動を充実させた。					

	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	10	2	2	3	3
評価	<p>「ほうふみらい塾」については、参加児童生徒 25 名が、関係機関の協力を得て、感染症拡大防止対策を講じながら、さまざまな体験的な学習活動を実施できた。各学校における職場体験学習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、中止や縮減をせざるを得なかった。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>感染症拡大防止対策を講じた上で、社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図るとともに、「ほうふみらい塾」についても商工会議所や関係機関との連携協力により、さまざまな体験的な学習を実施する。</p>					

事務事業 (予算事業名)	小・中の連携及び家庭・地域との連携強化 (地域と育む学び舎づくり事業)					
事務事業概要	<p>発達段階に応じて、9年間を見通したキャリアデザインを描きながら、小中連携を図るためにキャリア・パスポートの作成を進める。また、保護者や地域の人材を有効に活用した教育活動を推進する。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>市内共通のキャリア・パスポート「夢ノート」を作成し、活用の仕方を各校で検討した。</p>					
	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
評価	<p>中学校区で、キャリア・パスポートの効果的な活用法について共有できた。また、学校と家庭・地域や産業界等との連携・協力体制を図ることで、9年間を見通した効果的な体験的な活動を実践し、その成果をキャリア・パスポートに残すことができた。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>小学校から、中学校・高等学校へ確実に児童キャリア・パスポートを引き継ぎ、発達段階に応じた体験活動を重視したキャリア教育を推進し、キャリア・パスポートの充実に活かす。</p>					

事務事業 (予算事業名)	志を抱かせる教育の推進 (予算なし)					
事務事業概要	小学校では1 / 2成人式、中学校では立志式を行うなど、自分自身を見つめ直し、将来に向けての目標を考える機会を設定し、志を抱かせる教育活動を推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	市内の中学校11校と小学校の17校の全28校が実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	4	4	3	4
	小学4年生と中学2年生で、自分自身の生活を振り返り、新たな目標を考えるよい機会となった。感染拡大の影響で、保護者や地域の方々の前で発表できなかったケースもあるが、児童生徒にとって将来に向けて目標を語る機会であり、家庭におけるキャリア教育の推進にも成果をあげている。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	令和4年度も、児童生徒にとって自分自身の志についてより深く考える機会となるよう、学校運営協議会委員や地域の方等を交え、地域と連携した1 / 2成人式・立志式の実施を推進する。					

(2) 確かな学力の育成

事務事業 (予算事業名)	児童生徒の実態に応じた指導計画の作成 (学力向上のための基盤づくり調査研究事業)					
事務事業概要	全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題とを合わせて年間2回のP D C Aサイクルによる取組を実施する。さらに、結果分析に基づき、授業改善と学力向上に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	国から提供された問題を活用し、調査結果については、各校において誤答分析等を行い、授業改善に役立てた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	各校で自校採点し、授業改善に生かすことができるよう研修を実施した。					

令和4年度事業の課題・改善点	各種調査実施後の分析をもとに課題を洗い出す。その課題から授業の具体を探り（この課題はどのような授業から生まれたのか）、授業改善を行う。特に、授業の終盤で資質・能力が身についたかどうかを児童生徒自身も確かめるために、課題を与えたり、ふり返りの時間を充実させたりするよう働きかけ、継続的な課題の解決に努める。
----------------	--

事務事業 (予算事業名)	指導体制の充実 (予算なし)					
事務事業概要	教員の指導力向上を図るための研修会や学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問を実施する。少人数指導等によるきめ細やかな指導体制及び授業技術・指導方法の向上をめざした授業研究や授業評価の研修の充実を図る。					
令和3年度の主な取組 (具体的に)	学力向上推進室長による訪問を年間27回実施し、教員の授業力向上に対する助言を行った。 少人数指導を実施している学校の好事例を共有し、指導方法の改善に努めた。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	個々の教職員の支援により、授業力の向上や指導と評価の一体化についての理解を図ることができた。					
令和4年度事業の課題・改善点	今後も、指導と評価の一体化について研修を深める必要があるため、引き続き学力向上推進室長等の学校訪問による指導助言を実施する。					

事務事業 (予算事業名)	「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進 (予算なし)					
事務事業概要	学校教育における質の高い学びを実現し、生涯にわたって能動的に学び続ける児童生徒の育成を図るために、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。					
令和3年度の主な取組 (具体的に)	授業改善のツールとして、評価指標（ルーブリック）について研修を実施し、防府市全体で共有することができた。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	授業改善の視点として、児童生徒と評価指標をもとに目標設定をし、ふり返しを実施することができた学校が増加した。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒のつまずきやゴールの姿から授業を設計すること、深い学びに誘うためのめあてや発問の工夫について、はたらきかける。					

事務事業 (予算事業名)	学習習慣の確立 (ICT教育推進事業・地域と育む学び舎づくり事業)					
事務事業概要	学校だよりや学級だより等によって、学力向上や家庭学習の充実に関する積極的な情報提供を行うとともに、学校や放課後子ども教室での諸活動に地域の方々の参画を募り、学校・家庭・地域が一体となった取組を進めることによって、望ましい学習習慣を確立する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	学校だより等で児童生徒の学習状況について周知し、家庭学習の充実について涵養を図った。また、夏季休業中や放課後は、地域の方による学習支援を実施した。 全小・中学校で、1人1台タブレット端末の持ち帰りを促進し、家庭におけるタブレットを用いた学習内容について検討した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	学校運営協議会や地域の回覧等による積極的な情報提供により、家庭・地域と連携した取組が進んでいる。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、引き続き学習保障の場への地域の方の協力を得る。また、授業者は、児童生徒が授業内容と関連した家庭学習を自律的に行えるよう、学習の仕方や生活習慣等を継続的に丁寧に教えていく必要がある。同時に、タブレット端末の良さを活かした学習内容について研修を深めていく。					

(3) 社会の変化に対応した教育の充実

事務事業 (予算事業名)	英語教育の充実 (外国語活動事業)					
事務事業概要	小・中学校へALTを派遣し、英語の発音や表現に触れる機会を設定する。ICTを活かした英語教育の学習機会の促進を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	JETプログラムによるALT9人を小中学校に派遣した。小学校では外国語活動・外国語科を中心に、また中学校では全学年の英語の指導補助やレッスンプラン作成等の教材研究補助を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	ALTの派遣により、児童生徒が言語や文化に対して体験的に理解すること、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと、外国語の音声や基本的な表現に触れ、活用する場面を設定することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒の英語学習に対する意欲の向上や英語によるコミュニケーションの向上を図るため、市内全小・中学校で、ALTを効果的に活用した英語教育についての研究開発を促進し、評価活動にも積極的に参画する。					

事務事業 (予算事業名)	プログラミング教育の充実 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	ICT活用教育推進員の派遣やプログラミングロボットの活用などを通じて、小学校におけるプログラミングの授業づくりを推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	プログラミングロボットを使った実践的な研修を開催するとともに、プログラミング教育に係る授業支援を行う。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	研修会に参加した教員のプログラミング教育を行う指導力が向上した。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も教職員のニーズや各学校の実情に合わせた研修や訪問支援を行い、プログラミング教育をさらに充実させていく。					

事務事業 (予算事業名)	環境教育の充実 (予算なし)					
事務事業概要	教科横断的な学習活動を行い、児童生徒がSDGsといった環境問題について理解を深めるとともに、学校や地域の実情に応じた体験活動の場を設定する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	総合的な学習の時間や各教科でSDGsに関する内容を学習した。各学校でグリーンカーテンづくりを実施することができた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	総合的な学習の時間を軸とした環境教育を行うとともに、グリーンカーテンの普及活動を通して、子どもたちの環境保全への意識を高めることができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後は「ほうふっ子エコスクール」事業の一環として、牛乳パックのリサイクルに取り組んでいく等、子どもたちの環境問題に関わろうとする態度を育成するための活動を増やしていく必要がある。					

(4) ICT環境の整備と学習活動の充実

事務事業 (予算事業名)	高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	全小・中学校に校内LAN(Wi-Fi)を整備するとともに、学習に必要なタブレット端末を児童生徒に1人1台配置し、授業等で活用することで、Society5.0の時代を豊かに生き抜く力を育成する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	全小・中学校でタブレット端末を活用し、“つながる・ひろがる・深まる「ほうふスタイル」”の学びの実現に努めた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	令和2年度にセルラー方式のタブレットを配置したことにより、校内だけでなく、校外や家庭でも児童生徒がタブレットを更に活用した学習を行うことができた。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も、児童生徒の学習活動の充実を図るため、校内LANを整備していく必要がある。
------------------------	--

事務事業 (予算事業名)	大型提示装置の整備 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	普通教室に大型提示装置を配備し、授業で使用する資料の提示や児童生徒の個の意見を共有することで、主体的・対話的で深い学びを実現する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	全小・中学校の普通教室に大型提示装置を配備した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	大型提示装置を配備したことにより、資料の提示や児童生徒の意見の共有を図ることができ、授業改善の一助となった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後は、ICT機器の活用が主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう支援する。					

事務事業 (予算事業名)	ICT活用のための多様な人材活用 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	ICT機器を活用した授業支援や学校ICT環境の充実を図るため、ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員を計5名配置する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	ICT活用教育推進員4名、ICT活用教育専門員1名を配置することにより、各学校における定期的、ニーズに応じた訪問支援を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	訪問指導により、各校のニーズやICT活用の進捗状況を把握するとともに、推進のための助言をすることができた。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	今年度も引き続き、定期的な訪問やニーズに応じた訪問を実施することで、各校の実態に応じた助言やサポートをするとともに、推進員や専門員の資質・能力の向上を図る。
------------------------	--

事務事業 (予算事業名)	教職員研修の充実 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	プロジェクトチーム「DASH」が中心となり、ICT機器の操作方法や授業におけるタブレット端末の有効な活用方法、情報管理の方法や情報モラル教育など、時代や教職員のニーズに応じた研修会を実施し、ICT活用力の向上を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	プロジェクトチーム「DASH」の一員であるICT活用教育推進員が各学校を訪問し、校内研修への支援を行った。ICTに係る教職員アンケートをもとにした研修会を開催した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	タブレット端末を用いた研修やオンラインでの研修など、教職員のニーズに応じた研修会を実施することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も、教職員のICT活用力を向上させるための研修を多様な方法で行っていく必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	多様な学習活動の推進 (ICT教育推進事業)					
事務事業概要	授業支援アプリや学習用コンテンツを活用して、個別最適化された学習を推進する。教員が児童生徒一人ひとりの学習状況を把握し、個別学習の充実と授業改善に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	授業支援アプリ等を活用し、児童生徒が学習過程を記録したり、作品を保存することにより、児童生徒の個別の学習を評価・支援した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	タブレット端末や授業支援ソフト、アプリケーションの活用によって個別学習を充実するための研究が進み、各校の好事例を共有することができた。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も、児童生徒が自分に合った学習の進め方を考えることができるよう、教員への助言や研修を行っていく必要がある。
------------------------	---

(5) 学校図書館の充実と読書活動の推進

事務事業 (予算事業名)	読書・学習活動の充実 (予算なし)					
事務事業概要	学校図書館の一層の活用を推進し、児童生徒の資料・情報活用能力の向上を図る。また、全校一斉読書の継続・拡充を奨励するとともに、児童生徒に読書習慣を定着させるために、家庭への啓発を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	朝読書や読み聞かせ等の取組だけでなく、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習等でも、学校図書館を利用することが増えるよう支援を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	本の貸出冊数が増加しているだけでなく、調べ学習等で学校図書館を利用する学校も増えている。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も学校や家庭に対して、児童生徒の資料・情報活用能力の向上や読書習慣の定着に向けた支援を行う。					

(6) 心の教育の充実

事務事業 (予算事業名)	道徳教育の充実 (予算なし)					
事務事業概要	道徳科の授業の充実に向け、教育委員会と学校が連携し、校内研修を充実させる。また、ゲストティーチャーを活用した授業や、家庭や地域と連携した道徳科の授業を推進し、道徳教育の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業をするよう、研修会等で指導助言を行った。また、各校でゲストティーチャーを招聘した授業を実施した。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善が進んできた。					
令和4年度事業の課題・改善点	道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善及び年間計画等の整備をさらに充実していく必要がある。令和3～4年に「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト実施における好事例を市内小・中学校に発信する。					

事務事業 (予算事業名)	人権教育の充実 (予算なし)					
事務事業概要	人権意識高揚の教育を推進するとともに、教職員相互啓発を図るため、児童生徒の人権感覚を高める機会の促進と、教職員の人権教育研修の充実に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	研修会や実践事例の紹介を通して、教職員の人権意識の高揚を図った。各校の人権参観日、人権週間には書籍を紹介するなどして児童生徒の人権意識の涵養に努めた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	県や市主催の人権教育研修会への積極的な参加を促すとともに、市内小・中学校での人権教育の取組事例をまとめ、各小・中学校へ配付することができた。保護者や地域住民が参加する人権参観日等で、児童生徒の人権意識の高揚を図った。					
令和4年度事業の課題・改善点	今後は、県や市の人権教育施策を全ての教職員に浸透させるための研修を充実させる必要がある。引き続き、学校全体で児童生徒及び教職員が人権感覚を高める授業実践等を実施する。					

事務事業 (予算事業名)	伝統や文化に関する教育の充実 (予算なし)					
事務事業概要	体験型の学習を推進し、伝統、文化、芸術などへの関心を高める教育機会を充実させる。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	コミュニティ・スクールの仕組みを活かして、地域に現存する伝統文化を体験的に学ぶ機会を設け、伝統文化に関する教育の充実を図った。学校間で文化活動を行っている生徒同士の交流の場を設定した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	防府市内の各中学校で文化活動を行っている生徒の交流の場をもつことができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	「防府歴史・文化財読本～ほうふ学入門～」を各学校へ配付し、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					

(7) 生徒指導・相談体制の充実

事務事業 (予算事業名)	開発的な生徒指導の推進 (生徒指導・教育相談事業)					
事務事業概要	現在や将来における自己実現を図るため、発達段階に応じた組織的・計画的な生徒指導を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各校における効果的な生徒指導体制づくりのために、生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催した。 生徒指導における現状と課題を認識した上で、指導方針の明確化や開発的な生徒指導について共通理解を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	4	3
	いじめや暴力行為、不登校などの未然防止、早期発見・早期対応を行うために、より積極的な取組がみられるようになった。 生徒指導主任や教育相談担当者に対し、具体的な成功事例等を示すことにより、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの活用と外部機関との連携について周知することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒の不登校数は依然増加していることから、家庭と学校の連携を基盤とし、小・中連携や地域及び関係機関と学校が連携した生徒指導体制のさらなる強化、早い段階での関係機関との連携が今まで以上に必要である。					

事務事業 (予算事業名)	学校内外と連携した問題行動への対応 (生徒指導・教育相談事業)					
事務事業概要	サポートチーム等、関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・的確に対応する。また、基本的な生活習慣の定着や規範意識の醸成のため生活・安心相談員による訪問支援を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	「防府市生徒指導問題対策協議会」及び「防府市いじめ問題対策協議会」を設置し、問題行動への対応方法及び防止のための活動を行った。不登校やいじめの問題、暴力行為、虐待などの養育問題等、生徒指導に係る諸問題についての解決策等を協議するとともに、状況に応じて関係機関の連携による適切な対応を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	必要に応じてサポートチーム会議を開催することで、児童虐待や不登校、いじめ、暴力行為などの諸問題の未然防止や早期対応が図られた。また社会福祉士や臨床心理士の介入により、好転したケースもあった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	学校が対応に苦慮するケースが増加しているため、今まで以上に関係機関と連携した保護者支援等、早期に対応する必要がある。 保護者による子どもの教育に対する関心が低かったり養育への姿勢が感じられなかったりする保護者が増えつつあるという課題がある。					

事務事業 (予算事業名)	きめ細かな不登校対策の推進 (生徒指導・教育相談事業)					
事務事業概要	教育支援センター「オアシス教室」の不登校児童生徒専任指導員及び在宅生徒学習指導員並びに生活・安心相談員が各学校の不登校対策の支援を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	市の非常勤職員として専任指導員を3名雇用し、不登校児童生徒に対しての学習指導を中心に支援を行った。また、不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあり、電話相談だけでなく、学校への助言や家庭への支援を行う生活・安心相談員を1名配置して、課題の早期発見ならびに予防を行うなど、きめ細かな対応を行った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	<p>生活・安心相談員による保護者への助言や支援、学校への助言は、確実に効果が見られた。異なる課題を抱える不登校児童生徒にとって、学力の保障、人間関係の再構築等、学校復帰を目的とした本事業の担っている役割は非常に大きい。「オアシス教室」への通室を転機に学校復帰や社会的自立に向かっている児童生徒が増えており、更なる教育支援センターの機能の拡充が望まれる。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>不登校児童生徒数は増加傾向にあるが、専任指導員や在宅生徒学習指導員、生活・安心相談員が、様々なケースに丁寧に、また連携して対応している。これまでと同様に、保護者への助言や学校への支援等、今後より一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。</p>					

事務事業 (予算事業名)	緊急時等の学校への支援体制の充実 (生徒指導・教育相談事業)					
事務事業概要	<p>学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や、事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、専門家などを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行う体制の充実に努める。</p> <p>重篤ないじめ問題等の解決に向けた「いじめ問題等調査委員会」(第三者機関)の設置及び支援体制の整備に努める。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>「防府市生徒指導問題対策協議会」及び「防府市いじめ問題対策協議会」を設置し、問題行動への対応方法及び防止に向け、関係機関との連携に努めた。困難な事案については、児童生徒・家庭の状況に応じ、学校・教育委員会及び関係機関が連携して「緊急サポートチーム」を編成して対応した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>いじめの早期発見により解消した事案も多く見られ、その結果重大事態の発生件数は0件であった。重大事態の発生に備えて関係機関との連携強化を図ることができた。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>引き続き、児童生徒の問題行動等について、早期の情報共有や、学校・専門家が連携対応できる体制を整え、組織的に対応できるよう働きかける。</p>					

(8) 健康教育の推進

事務事業 (予算事業名)	体力向上のための望ましい運動習慣の定着 (地域部活動研究事業)					
事務事業概要	体力テストの分析結果に基づき、体力向上プランの改善を図り、児童生徒の体力向上に努める。併せて、地域における部活動を推進し、児童生徒の体力向上に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	児童生徒の体力に関する課題の把握及び解決に向けて、小・中学校において新体力テストを実施し、各校独自の1校1取組を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	成長期にある児童生徒の体力向上には時間がかかり、各校の継続した取組が必要である。特に、コロナ禍で運動機会が減り、体力低下が懸念されているが、各校で新体力テストの結果をもとに、課題を明確にし、課題の克服に向けて取り組んだ。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	新体力テストの結果から、各校の児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた体力向上プログラムを作成し、計画的・継続的に実施する。また、児童生徒の発達段階に応じた水泳指導の定着と水の事故防止に関する知識の習得を目指す。					

事務事業 (予算事業名)	健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実 (予算なし)					
事務事業概要	学校保健計画を随時見直し、校内推進体制の充実を図る。体力テストの分析結果を市役所のホームページにアップするなどして、家庭・地域・関係機関との連携を強化し、指導の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	令和3年度は、コロナ禍により新体力テストの全種目を全校実施ができなかったため、本市の体力の現状について体力向上だよりを作成し、周知した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	コロナ禍のため家庭・地域の連携は十分に行えなかったが、指導者等を活用して体力の課題のある項目について研修を行う学校も見られた。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	令和3年度に引き続き、学校保健計画を見直し、校内推進体制の充実を図る。感染症拡大防止対策等も含め、健康な生活を送るためには、体力だけでなく心の健康の保持増進を図る必要がある。
------------------------	---

事務事業 (予算事業名)	食に関する指導の充実 (予算なし)					
事務事業概要	食に関して、全体計画を踏まえた指導の充実に努めるとともに、家庭や地域との連携により、望ましい食生活の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	栄養教諭など学校給食に携わる職員は、県及び市主催の研修会に積極的に参加し、授業公開や研究協議を行い資質向上を図った。そして各校で望ましい食生活のあり方などについて児童生徒へ指導した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	食育に関する企画や冊子等を各校に紹介し、児童生徒への指導の充実を図った。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も引き続き、食育に関する企画を取り入れ、児童生徒の食育への関心を高めたり、栄養教諭による訪問指導や食育担当者の実践発表を紹介する研修会を実施し、研修成果を各校に還元したりするなどして、食育の充実を図る必要がある。					

(9) 安全・安心な学校給食の推進

事務事業 (予算事業名)	食育の推進 (予算なし)					
事務事業概要	栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育を推進し、食に関する指導の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	給食物資については、地場産食材を活用し、郷土料理や季節毎の行事食などを献立に取り入れた。また、毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配布し、食育の推進を図った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	3	4	4	4
	<p>地場産食材については、JA等の情報を各学校に共有し、本市全体で利用率の向上を図った。学校における食育指導及び環境整備も計画的に行われている。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>食育の推進に向けて、栄養教諭・学校栄養職員の資質能力の向上を図る。</p>					

事務事業 (予算事業名)	使用食材の安全性の確保と地産地消の推進 (学校給食実施事業・給食センター運営事業)					
事務事業概要	<p>地元生産者及び市場・卸業者等の情報収集を行い、使用食材の産地確認・生産履歴等、安全性の確保に努め、地場産食材の使用を推進する。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>地場産食材の使用については、市場・卸業者等と連携を図り、学校給食県産食材利用拡大事業の県産100%メニューを年9回実施し、各学校等の献立の情報を共有した。</p> <p>また、使用食材の産地・生産履歴を確認し、安全性の確保に努めた。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>地場産食材の使用については、市場・卸業者等の情報を各学校と共有し献立を工夫するなど、本市全体で利用率の向上に努めている。令和3年度の地場産食材(県内産)の利用率は72.5%であった。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>地場産食材については、生産コストの高騰による価格の上昇や天候等により必要数量の確保が困難になるなどの課題があるが、納入業者との連携を密にし、献立を工夫することにより利用率の向上に努める。</p> <p>食材の納品にあたっては、産地・生産履歴の確認に加え、納入時には品質や鮮度等に問題がないか確認し、安全性の確保に努める。</p>					

事務事業 (予算事業名)	食物アレルギーへの対応 (予算なし)					
事務事業概要	食物アレルギーを有する児童生徒の保護者との面談により、情報の共有化を図るとともに、研修会を開催して適切な対応に努める、					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	エピペン実習を含む食物アレルギーに関する研修会を実施した。14人の参加があった。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	3	4	4	4
	研修会を開催したことで、各校で情報の共有化が図られ、適切な対応が行われた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	エピペンを所持している児童生徒が増加していることから、今後、より一層食物アレルギーに関する理解の共有や対応力の強化に努める必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	安全・安心な給食の提供 (学校給食実施事業・給食センター運営事業)					
事務事業概要	安全・安心な給食を提供するために、施設の整備に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各小学校及び学校給食センターの施設や器具の整備を実施した。 また、市内11小学校と小野学校給食共同調理場及び防府市学校給食センターで実施している給食調理等一部業務委託を継続した。残りの4小学校は直営で実施した。 令和4年度からの給食調理等一部業務委託は、松崎小学校・新田小学校・右田小学校については契約を更新し、向島小学校については、学校給食センターからの配送での給食提供に変更した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	施設整備のため、専門業者による定期的な保守点検を実施した。また、定期的に調理場を訪問し、様々な項目についてチェックする「モニタリング」を実施し、指導や助言を行った。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	各学校の給食室や学校給食センターの設備等については、経年劣化が進んでいるため、計画的に更新する必要がある。給食調理業務については、令和5年度から新たに大道小学校の業務委託を開始するため令和4年度に契約を締結する。
------------------------	--

(10) 特別支援教育の充実

事務事業 (予算事業名)	早期からの切れ目ない支援体制の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業、私立幼稚園特別支援教育費補助事業)					
事務事業概要	幼児通級指導教室や幼稚園、保育園(所)との連携を充実させ、個に応じた指導方法の工夫と改善、指導の系統性と継続性を図り、適切な就学教育支援に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	幼児通級指導教室については、佐波小幼児通級では90人、華浦小幼児通級では42人の指導を行った。また、中関小学校に幼児通級指導教室が新設され31人を指導した。 幼稚園や保育園(所)の職員と小学1年生の担任等が協議できる幼保・小連携教育研修会を実施した。また、職員同士の連絡会や授業参観、子ども同士の交流が各小学校単位で年間を通じ1回以上実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	幼児通級指導教室での個別指導により、就学前の児童の状況が好転しており、保護者との連携も強くなっている。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	就学前の児童の状況が好転しており、保護者との連携も強くなっていることから、幼児通級指導員の増員が引き続き強く望まれている。					

事務事業 (予算事業名)	特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善 (個のニーズに応じた教育支援事業)					
事務事業概要	特別支援教育に関する校内研修の充実を図り、誰にでも分かりやすい授業づくりを推進する。また、学校支援員を配置し、個別の配慮が必要な児童生徒への支援を行う。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	ユニバーサルデザインに基づいた授業改善について、各学校の校内研修や教育委員会が主催する教職員研修会「ほうふ塾」を開催した。 小・中学校において、学校支援員を58名配置し、配慮が必要な児童生徒への支援を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	研修会の実施により、誰にでもわかりやすい授業づくりや個別の支援が必要な児童生徒についての理解が深まった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も、特別支援教育の視点を取り入れた研修を実施する。 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態から、支援員の増員が引き続き強く望まれている。					

事務事業 (予算事業名)	特別支援学級における教育の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業)					
事務事業概要	個別の教育支援計画を活用して、一人ひとりに応じたきめ細やかな支援を行う。また、校内の児童生徒や地域の人との交流及び共同学習を推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	小・中学校においても、個別の支援計画等を活用した児童生徒の引き継ぎを行った。各教科等で児童生徒や地域の人々との交流学习を推進した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	児童生徒の個々の実態にあわせた教育活動を支援することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今年度から支援員を年間任用とし、子どもたちへの支援が切れ目なく行える形となっている。特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態から、支援員の増員が引き続き強く望まれている。					

事務事業 (予算事業名)	校内教育支援体制の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業)					
事務事業概要	特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じ、組織的・計画的な教育活動を推進する。また、保護者との信頼関係を構築する。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>地域コーディネーターが学校訪問を実施し、児童生徒一人ひとりのニーズを把握し、学校への助言を行った。</p> <p>障害のある児童生徒、また、障害の可能性のある児童生徒に対して、必要な教育支援を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市教育支援委員会を設置し、必要となる調査・検査・診断に基づいた教育支援を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>特別な教育的支援を必要とする幼児・児童についてお互いの授業参観等の機会をもつことで情報の共有ができた。</p> <p>障害のある児童生徒の就学に関しては、教育支援委員会において、専門的な立場から障害の種類、程度等を勘案して個に応じた教育支援ができた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>関係機関との連携による教育支援体制のより一層の充実を図り、特別な配慮の必要な児童生徒に対して、引き続き、個別の教育支援計画や指導の計画を活用する。特に年度末に目標案を作成し、切れ目なく適切な指導・支援を行う。</p>					

事務事業 (予算事業名)	特別支援教育に関する広報活動の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業)					
事務事業概要	「防府市の特別支援教育」のチラシを作成し、各家庭に配布するとともに、ホームページに掲載する。また、障害の理解や適切な対応等の講演会や研修会について、学校のみならず広く周知を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	「防府市の特別支援教育」のチラシを各家庭に配布した。障害理解を深めるため、研修会を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	研修会において、学校や支援員の取組について情報共有することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、研修会で共通理解した内容を、それぞれの学校で周知する必要がある。					

(11) 幼児教育の充実

事務事業 (予算事業名)	幼保・小の連携の推進 (予算なし)					
事務事業概要	小学校第1学年において、生活科を中心とした合科的な指導を充実させる。また「幼保・小連携教育研修会」を実施し、幼稚園・保育園(所)、小学校の連携体制を構築する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各小学校で作成したスタートカリキュラムをもとに、生活科を中心とした学校生活に慣れるための指導を行った。幼保・小連携教育研修会には47人の参加があった。幼保・小接続期の教育のあり方について協議するとともに、各園、各校のアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて情報交換を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	関係小学校、幼稚園、保育園(所)の交流やスタートカリキュラムの実施により、1年生が安心して学校生活を送ることができている。 幼稚園・保育園(所)と小学校の教諭がそれぞれの取組や子どもたちの様子について情報を共有することにより、個に応じた指導を行うことができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	幼児・児童の交流や職員同士の参観、情報交換の場を設ける。より効果的な連携を進めていくために、継続して研修や情報交換の機会をもつとともに、関係小学校、幼稚園・保育園(所)同士で引継を確実に実施する。					

事務事業 (予算事業名)	子育てに関する相談体制の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業)					
事務事業概要	5歳児発達相談を実施し、幼児の発達特性を保護者に理解してもらうことで、早期からの支援体制の充実を図る。併せて、幼児に対する就学相談、就学指導を随時実施する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	5歳児発達相談会86人と就学相談102人の保護者に対して相談を実施した。療育機関や発達に関する医療機関を紹介するなど、保護者の子育ての悩みや不安を軽減し、一人ひとりの実態に応じた支援を行った。					

評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	<p>就学前の早い段階からの発達に関する相談会を実施することにより、早期に療育機関や医療機関等に繋げることができ、児童の適正な就学に繋げることができた。</p> <p>更に、専門の相談員から保護者に対して子育てに関する適切なアドバイスをすることにより、日々の適切な児童への関わりをすることができるようになるなど、就学前の保護者への支援に効果がある。</p>				
令和4年度事業の課題・改善点	<p>引き続き、園から日頃の生活の様子や、将来を見据えた早期の対応等を粘り強く説明していく必要がある。</p> <p>相談が必要と思われる5歳児の参加を促すことが困難なことから、その保護者に対してどのようにアプローチし相談会への参加や支援につなげていくかが課題である。</p> <p>併せて、年々相談者が増加しているため、医師や心理士等のスタッフの確保も課題である。</p>				

事務事業 (予算事業名)	乳幼児機関への支援の充実 (幼児施設利用支援事業、幼稚園連盟補助事業)				
事務事業概要	防府市幼稚園連盟に対する補助金を交付する。私立幼稚園における子どもの読書活動推進に要する費用を補助する。				
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>幼稚園連盟補助事業により、防府市幼稚園連盟の行う研究調査及び研修活動等に対し補助を行った。</p> <p>「幼児教育の無償化」により、1人月額25,700円を上限に補助金を交付した。</p> <p>私立幼稚園における子どもの読書活動推進するため園児数等に応じて補助した。</p>				
評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	私立幼稚園に対し、園の運営等に必要な援助を行うことができた。				
令和4年度事業の課題・改善点	公立幼稚園を有しない本市において、私立幼稚園への支援は幼児教育の充実を図るために必要な施策であり、引き続き支援を行う。				

◎地域ぐるみの教育の推進

(1) 地域とともにある学校づくりの推進

事務事業 (予算事業名)	コミュニティ・スクールの円滑な運営 (地域と育む学び舎づくり事業)					
事務事業概要	コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携を強化し、特色のある学校づくりを推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	コロナ禍ではあったが、各学校の創意工夫により、保護者や地域住民等が協働した学校運営への参画を推進した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	2	3	3	4
	各学校では、コロナ禍でもできる保護者や地域住民との連携を模索し、工夫して取り組んでいた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図るため、今後は新しい地域連携の実施方法を考えていく必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	広報活動の充実 (地域と育む学び舎づくり事業)					
事務事業概要	コミュニティ・スクールの取組を紹介するプレゼンテーションの活用等を通して、保護者や地域住民のコミュニティ・スクールに対する認知度を上げる。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各学校でコミュニティ・スクールとしての取組を紹介するプレゼンテーションを作成した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	児童生徒が地域貢献活動を実施することにより、地域住民へ周知することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	「防府まるごと学校のつどい」などの会議に学校が主体的に参加するように働きかけ、学校・家庭・地域のネットワークづくりに努める。					

◎安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

(1) 安全・安心な施設・整備、教育環境の確保

事務事業 (予算事業名)	学校教材の整備 (小学校教材用品整備事業、中学校教材用品整備事業)					
事務事業概要	学校教育環境の充実を図るため、理科備品やICT機器などを配備し、時代の変化を見据えた確かな学力の育成と学校教材の適正な運用管理に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	学校教育環境の充実を図るため、学習生活に必要な教材備品や新規に開設する特別支援学級の備品など、学校の教材備品、教材用品を整備した。また、教職員用タブレットを導入した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	小・中学校に計画的な学校教材の整備を行うことができた。また、教職員用タブレットを導入し、既に配布済みの児童生徒用端末を使用した効果的な授業づくりを進めることができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	小・中学校で使用する教材備品、教材用品の整備は、教育の質の向上のために不可欠であり、更に充実していく必要がある。今後も学校と協議し、さらに計画的な整備を行う。					

(2) 学校安全の推進

事務事業 (予算事業名)	児童生徒の危機予測・回避能力の向上 (学校安全事業)				
事務事業概要	児童生徒が自らの命を守る能力を身に付けるため、警察と連携した交通安全教室や火災・自然災害・不審者対応訓練など、学校安全計画に基づいた安全指導を実施する。また、毎年通学路点検を実施し、危険箇所を児童生徒に周知するとともに、安全な登下校について指導する。				
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	新一年生対象の交通安全教室を防府警察署や安全協会と連携し実施した。また、警察と連携して少年安全サポーターを配置し、巡回訪問や要請があった場合に学校を訪問するなど、学校安全体制の整備を支援した。さらに、学校への不審者の侵入や登下校時において不審者に遭遇した場合の安全確保のため、各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。				

評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	<p>学校独自の交通教室を含め、入学時の交通教室を関係機関と連携して実施することができており、交通安全指導の充実を図ることができている。少年安全サポーターは、不審者や登下校時の様々なトラブルなどの情報への対応も的確であり、小・中学校の安全体制確立を積極的に支援し、学校安全体制に大きく寄与している。</p> <p>また、スクールガードリーダーも各小・中学校で実施されている不審者対応訓練において、これまでの経験と専門性を生かした指導助言で大きな成果をあげた。</p>				
令和4年度事業の課題・改善点	<p>不審者や交通マナー等の問題が依然として多くあり、各学校での日常の取組をさらに充実させることで、児童生徒の自己管理能力や危機管理能力を向上させていくことが重要なことである。また、警察等の関係機関や家庭・地域との連携をより一層に深め、円滑なものにする必要がある。</p>				

事務事業 (予算事業名)	機能する危機管理体制の確立 (予算なし)				
事務事業概要	各種安全教育研修会への参加促進など、教職員の危機管理能力の向上を図るとともに、防府市メールサービスの活用促進等により危機管理体制の確立を図る。				
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>各学校独自の研修に加え、県や市が主催する各種安全教育研修会へ教職員が積極的に参加した。</p> <p>市内全ての小・中学校で学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備され、引き渡しマニュアルなどと連動して運用されている。</p>				
評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	<p>各種危機管理研修会へ参加した教職員の復命内容が各学校の危機管理体制の構築・改善に活かされている。また、学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムの整備によって、緊急時への対応体制が整備されたことで、休校などの連絡も迅速に行えている。</p>				
令和4年度事業の課題・改善点	<p>防犯研修会や様々な災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進し、学校の危機管理マニュアル等の見直しを図りながら、常に教職員間での共通理解を促す必要がある。</p>				

事務事業 (予算事業名)	地域・家庭と連携した学校安全体制の整備 (学校安全事業)					
事務事業概要	地域の関係団体や保護者との連携の強化による見守り活動等の充実や各地域におけるスクールガード組織の運営への積極的な支援を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各校のスクールガード組織の再構築及びみまもり隊との緊急連絡体制の連携を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	地域のスクールガードが主体的に見守り活動に取り組み、子どもたちの安全な登下校が確保された。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も、継続的な地域の関係団体や保護者との連携による、学校安全体制のより一層の整備が求められる。また、未然に事件事故を防ぐために地域・保護者・みまもり隊の意見を取り入れながら、学校安全に関する見直しを継続して行わなければならない。					

事務事業 (予算事業名)	防災教育と防災管理を一体的に捉えた学校防災の充実 (予算なし)					
事務事業概要	地域の自然災害の特徴や児童生徒の発達段階に応じた防災教育を促進し、「防災対応能力」の向上を図る。また、災害安全に関する組織活動ができるよう、保護者や地域住民、地域の関係機関・団体等との密接な連携を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各学校において地震や津波、豪雨災害等の自然災害や火災を想定した避難訓練が実施されている。また、地域と合同で訓練を行う学校も増えてきた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	いろいろな災害を想定した避難訓練を実施し、危機管理マニュアルや教育環境の整備・改善に取り組んでいる。学校運営協議会と連携するなど地域と合同の訓練を実施したり、各関係機関と連携したりすることで、学校が核となって地域全体の防災意識も高まってきた。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域と連携したより実践的な訓練の実施が行われている学校も増えてきている。今後も、基本的な訓練を定期的に行い、様々な状況を想定した実践的な訓練を継続する必要がある。
------------------------	--

事務事業 (予算事業名)	感染症拡大防止体制の確立 (小学校管理事業、中学校管理事業)					
事務事業概要	各学校における手洗いや換気等の取組を推進し、感染症の拡大防止に努める。特に、「新型コロナウイルス感染症」拡大防止については、最新の感染状況や対策についての情報を発信し、各学校の対応マニュアルの更新と、それに基づいた対策の徹底を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	文部科学省等が提示するガイドラインをもとに、各学校において感染状況に応じた感染症拡大防止対策に努めた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	学校内のみの感染症拡大防止対策ではなく、コミュニティ・スクールの仕組みを活かして、保護者や地域住民の協力のもとで感染症拡大防止対策をしながら教育活動を推進することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、学校だより等で、感染症拡大防止対策を講じた上での教育活動について保護者及び地域住民の理解を得るとともに、ガイドラインに沿った対応マニュアルを更新する。					

(3) 校種間連携・小中一貫教育の推進

事務事業 (予算事業名)	幼保・小・中・高の校種間の連携強化 (予算なし)
事務事業概要	幼保・小・中・高の校種間の連携を強化し、継続的な指導の充実を図る。また、進学前後の情報交換等により、校種間の円滑な接続やつまずきの予防に努める。
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	小1プロブレム解消のため、幼保・小連携教育研修会等の機会を利用し、情報交換の必要性について理解を深めた。中1ギャップへの対策として、中学校教員による小学校への出前授業、小学生の中学校体験入学などを継続して実施した。 中・高の連携を図るため、学校相互の授業参観等を行い、相互の情報交換の場を設けた。

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	幼保・小・中・高の校種間の連携を強化し、円滑な接続に努めた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今後も継続して、幼保・小・中・高の連携を図るための機会をもつとともに、小中高英語教育連携事業の好事例を市内小・中学校に共有するなどして情報交換に努め、具体的な取組について協議していく。					

事務事業 (予算事業名)	小・中学校9年間を見通した小中一貫教育の推進 (小中一貫教育推進事業)					
事務事業概要	9年間を見通した教育課程の編成や、小・中学校共通の指導事項を設定することにより、発達段階に応じた、きめ細かい教育を推進する。また、やまぐち型地域連携教育を活用して、地域との連携強化を図り、さらなる校種間の連携を推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	小・中学校の合同研修会等を実施し、児童生徒の学習活動中の姿をもとにした共通指導事項を整理し、共通実践した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	小・中学校の合同研修会で、学び直しの観点から指導事項の重なりを整理した。また、9年間を見通した共通の指導事項をもとに、中学校教員がその専門性を生かした乗り入れ授業を小学校で行うことができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	中学校教員による小学校への乗り入れ授業、互見授業を通して得た研究成果を広く市内小・中学校に波及させることで、小・中学校間のギャップを減らし、より充実した教育活動を推進する必要がある。					

(4) 教育機会の確保

事務事業 (予算事業名)	経済支援の充実 (幼児施設利用支援事業、小学校就学援助費、小学校特別支援教育就学援助事業、中学校就学援助費、中学校特別支援教育就学援助事業)					
事務事業概要	教材費の保護者負担を軽減するため就学援助費を給付し、教育機会の確保を図る。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>「幼児教育の無償化」に伴い、保護者の所得によらず、月額25,700円を上限に補助を行った。</p> <p>また、小・中学校への就学に係る経済的な負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費として学用品費・通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等の補助を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	<p>私立幼稚園・小・中学校に就園・就学する児童生徒の保護者に、経済的な支援を行い、負担軽減を図ることができた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>教育の機会均等の趣旨にのっとり、経済的な負担を抱えている保護者に対して今後も継続して必要な支援を行うとともに、より広く周知ができるよう努める。</p>					

事務事業 (予算事業名)	私立高等学校への支援 (学校法人教育活動補助事業)					
事務事業概要	<p>私立高等学校が実施する高校生の地域貢献などの地域活動を促進し、私立高等学校の施設整備などの充実を図るため、補助金を交付する。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>私立高等学校の振興充実を図るため、高等学校を設置する学校法人に対し、当該高等学校の地域活動及び学校活動事業について、補助金を交付した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>市内私立高等学校2校に対し、市内に在住する生徒の人数などに応じ、当該高等学校の地域活動及び学校活動の補助を行うことができた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>私立高等学校の振興充実のため、今後も継続して必要な支援を行う。</p>					

事務事業 (予算事業名)	地理的条件の解消 (茜島シーサイドスクール事業)					
事務事業概要	野島小・中学校への渡船通学費用及び小規模特認校の制度を利用して通学する向島小、富海小・中学校児童生徒の保護者に対する通学費用の一部を補助する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	野島小・中学校で実施する「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒の渡船費用の半額及び小規模特認校制度により富海小・中学校へ公共交通機関で通学する児童生徒の公共交通機関での通学に要する費用の半額を補助した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒14人の保護者へ通学費の補助を行った。また、小規模特認校に指定された富海小・中学校へ公共交通機関により通学する児童生徒13人の保護者に対し、通学費の補助を行った。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	野島の教育条件の特性を生かした特色ある教育活動を推進する「茜島シーサイドスクール」事業の推進や島の活性化、また、小規模特認校に指定する富海小・中学校または向島小学校へ通学する児童生徒の保護者負担軽減のため、今後も継続して必要な支援を行う。					

事務事業 (予算事業名)	教育支援の充実 (個のニーズに応じた教育支援事業、生徒指導・教育相談事業、小学校就学援助費、小学校特別支援教育就学援助事業、中学校就学援助費、中学校特別支援教育就学援助事業)					
事務事業概要	さまざまな障害や病気を抱えている児童生徒に対して、個別の支援体制や教育機会を確保するとともに、家庭の経済状況などの課題を抱えている家庭に対する家庭教育支援や不登校などの問題を抱えている児童生徒に対する学習支援を充実する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	障害のある児童生徒、また、障害の可能性がある児童生徒に対しては、教育支援委員会による教育支援を行った。 不登校等の問題を抱えている児童生徒に対しては、生活・安心相談員による教育相談、在宅生徒学習指導員による指導、教育支援センター「オアシス教室」による通室指導を実施した。 また、就学援助費補助金等による経済的な援助を行った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>障害のある児童生徒に関しては、教育支援委員会において、適正な審議・判定がなされたことにより、その子に合った支援を行うことができた。</p> <p>小・中学校に就学する児童生徒の保護者に、就学援助費補助金等による支援を行い、負担軽減を図ることができた。生活・安心相談員による学校への助言や家庭への支援は効果が見られた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>個別の支援体制やオアシス教室への通室、在宅生徒学習指導員との学習を希望する児童生徒も増加しており、さらなる教育支援の充実が望まれる。</p>					

(5) 学校における働き方改革の推進

事務事業 (予算事業名)	業務の見直しと効率化 (教育指導管理業務)					
事務事業概要	防府市グループウェア（ミライム）を活用した情報共有、職員会議のペーパーレス化等、ICTを活用した業務の省略化、効率化を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	防府市グループウェア（ミライム）がもつアンケート機能や、様式集等を活用して業務の効率化を図った。同時に、会議等の資料をペーパーレス化により業務の見直しを行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	グループウェアの活用により、業務の効率化が図れた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	今年度も引き続き、教育委員会主催の情報教育担当者会議等で、ICTを活用した業務の効率化について働きかけていく。					

事務事業 (予算事業名)	勤務体制の改善 (予算なし)					
事務事業概要	<p>防府市グループウェア（ミライム）等を活用した時間外在校時間の確実な把握を促進する。</p> <p>電話自動音声応答システムの導入等、放課後の時間外勤務の軽減に努める。</p>					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	グループウェアを利用して、毎日在校時間を把握した。 電話自動応答システムを導入し、放課後の時間外業務の軽減を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>確実な時間外勤務時間を把握することができた。</p> <p>小学校においては、令和2年度平均時間外在校時間が平均41.7時間であったが、令和3年度は39.9時間に減少した。中学校においては、令和2年度は、平均時間外在校時間が51.9時間であったが、令和3年度は47.7時間に減少した。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、職員会議等で働き方改革の推進について啓発活動を行う必要がある。同時に、啓発の一貫として、好事例を集め各校に紹介することで業務体制改善の促進を図る。					

事務事業 (予算事業名)	学校支援人材の活用 (ICT教育推進事業、地域部活動研究事業)					
事務事業概要	部活動指導員、ICT活用教育推進員を配置し、教職員の業務支援や資質向上に向けた研修等のサポートを行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	部活動指導員、ICT活用教育推進員を配置した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>部活動指導員を配置することは、教職員の在校等時間を減少させる一助となった。</p> <p>ICT活用教育推進員を配置することにより、学校における授業改善につながった。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、定期的に学校からの聞き取りを実施し、学校のニーズを共有することで、学校の実態にあった支援を計画・実施する。					

(6) 教職員の資質能力の向上

事務事業 (予算事業名)	教職員研修の充実 (予算なし)					
事務事業概要	若手教員のスキルアップを目的とした「ほうふ塾」や、ミドルリーダーの育成をめざした「Premiumほうふ塾」等、キャリアステージを意識した人材育成研修を実施する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	「ほうふ塾」を6回、「Premiumほうふ塾」を3回、すべての世代の教員を対象とした「ほうふ塾MIX」を3回実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	集合による研修だけでなく、オンラインによる研修会も実施した。感染症予防に対応するとともに、教員のオンラインによる研修の資質向上につながった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、計画に沿った研修会の実施を推進する。参加者のニーズに合わせた研修を実施するとともに、参加者のニーズも把握する必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	学校内の人材育成 (予算なし)					
事務事業概要	「防府市人材育成シート」を活用して教職員が自己のよさや課題を明確にできるような取組を行う。 学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問において、学校経営支援や授業観察、助言等を実施する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	年度当初に、各学校で人材育成シートを活用して自己目標シートを作成した。 年間27回、学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問を実施し、キャリアステージにあった学校訪問を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	教育委員会と学校が協働して人材育成を推進することができた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	教職員が「防府市人材育成シート」を利用して自律的にキャリアアップが図れるよう、管理職や指導主事が積極的に活用して助言する。					

<p>外部評価者の 意見</p>	<p>全般に着実な成果をあげている。 評価指標（ルーブリック）を用いて児童生徒とともに目標設定することで主体的・対話的で深い学びの実現をめざそうとしていること、いじめの早期発見に努めるなどした結果、前年度に続き重大事態の発生がなかったことなどを評価したい。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>数多い事務事業をこなしているうえに新しい事業にもトライしている。 教科担任制が進むことで、児童生徒の学力の向上につながり、学校における働き方改革の更なる推進にも期待できるので思い切った取り組みに期待したい。 特別支援教育へも事業を増やし誰ひとり取り残さない切れ目のない教育への強い思いを感じる。 学校教材の整備に対してA評価をされているが、理科をはじめとする教材備品、家庭科等で使用する備品、吹奏楽に欠かせない楽器などへの整備をしっかりと取り組むべきである。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>事業数が多く、実行に向けて大変と思うが、概ね計画どおりに実施できていることは評価できる。 コロナは収まらない状況が続いていて体験的な学習活動が中止になったのは仕方がないが残念に思う。 不登校対策については、もっと生徒に寄り添った対応をお願いしたい。</p>

〔3〕生涯学習課

◎ 基本方針

第3次防府市生涯学習推進計画を策定し、市民ニーズを踏まえた講座の新設や内容の充実による多様な学習機会の提供、学習成果を活かすための場づくりや生涯学習の情報提供・相談体制の充実に努めるとともに、地域活動の拠点となる公民館の機能拡充を図る。

◎ 地域ぐるみの教育の推進

(1) 地域とともにある学校づくりの推進

事務事業 (予算事業名)	地域協育ネットの推進 (地域学校協働活動推進事業)					
事務事業概要	各中学校区における学校・家庭・地域が協働するネットワーク(=ほうふ幸せますネット)を推進し、学習支援・環境整備・見守り活動などの学校等を拠点とした教育支援事業や小学校区における放課後子ども教室推進事業等の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>年2回開催することとしている「防府まるごと学校のつどい」は新型コロナウイルス感染症のため中止した。「地域まるごと学校『防府モデル』」(マニュアル)を改訂、配付することで地域協育ネットの推進を図った。また、地域連携に関するアンケートを実施し、実態把握と情報共有に努めた。</p> <p>放課後子ども教室を市内13地区で実施した。</p> <p>(活動内容:工作、手芸、俳句、芋掘り、ニュースポーツなど)</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>地域学校協働活動推進員を中心に、各地域の実態に応じた形態で地域協育ネットが開催され、学校・家庭・地域の連携強化が進められた。新型コロナウイルスの感染状況等の理由により地域協育ネットを開催することができない地域であっても、これまで培ってきた連携の仕組みを生かしながら、共通実践項目に取り組むことができた。</p> <p>放課後子ども教室は、コロナ禍による休止期間があり、再開後も感染対策を踏まえた内容の検討に苦慮したが、教室間で好事例を共有することで、円滑な事業の推進を図った。結果として、コロナ禍でありながらも、延べ2,923人の児童が参加し、一定の成果が得られた。</p>					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>複雑な校区編成の地域協育ネットについては、取り組み方を明確に示し、その活性化に努める必要がある。学校・家庭・地域が対等なパートナーとなり、持続可能な取組としていくために、「防府まると学校のつどい」等の機会を通して、市内各地域の好事例の紹介やビジョンの共有化や、参加者の見直しを図る必要がある。</p> <p>放課後子ども教室について、教室間の連携がとりやすい仕組みを検討する必要がある。</p>
------------------------	--

(2) 青少年の健全育成

事務事業 (予算事業名)	家庭教育機能の強化 (青少年活動諸事業)					
事務事業概要	<p>青少年育成市民会議と連携し、「家庭の日」運動の普及、青少年育成センターによる青少年及び保護者に対応する相談機能の充実を図ることで、家庭教育力の向上を目指す。</p> <p>山口短期大学及び高等学校等と連携・協働し、文化福社会館等で「家庭の日」親子ふれあいイベントを実施する。</p> <p>地域の多様な人材を中心とした家庭教育支援チームの活動を拡充し、社会全体での家庭教育支援を図る。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>青少年相談活動については、青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施しており、74件の相談を受けた。</p> <p>山口短期大学と協働し、「家庭の日」親子ふれあいイベントを、感染防止対策を講じて3回開催した。</p> <p>家庭教育支援チームによる子育て学習会や「赤ちゃんとのふれあい体験」を実施した。また、新たな試みとして、家庭教育に関する養成講座の修了者を対象にした情報交換会を開催した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	<p>「ヤングテレホン防府」の相談件数は、前年度と比較すると99件減少しているが、相談者に対して適切な助言はできた。</p> <p>「家庭の日」親子ふれあいイベントでは、協働相手の山口短期大学が日頃、取り組んでいることから発想を得て、参加したくなるような内容を検討し、11月のイベントでは、新企画として電飾を用いた工作の企画を実施した。その結果、コロナ禍でありながらも、104人という想定を大幅に超える来場者があった。</p> <p>家庭教育支援チームによるイベントを新たに高等学校で開催することで活動の拡充を図った。また、情報交換会などで呼びかけを行った結果、チーム員が1人増えた。</p>					

<p>令和4年度 事業の課題・ 改善点</p>	<p>「ヤングテレホン防府」について、相談受案件数の中に無言電話が何件か含まれているが、これは単なるいたずら電話ではなく、「相談したかったが勇気が出ずにためらった」などの理由で電話を切った相談者も含まれているのではないかと推測される。少しでも相談しやすくするために、各種広報紙等で親しみやすく・分かりやすく周知をしていく必要がある。</p> <p>「家庭の日」親子ふれあいイベントは、より高い相乗効果が得られるよう、協働相手の特色や強みを踏まえ、きめ細やかな工夫を取り入れる必要がある。</p> <p>家庭教育支援チームは、依然として人材の固定化が課題であり、PTAをはじめとする関係機関・団体に呼び掛けを行うことなどを通じて、持続可能な仕組みづくりを図る必要がある。</p>
---------------------------------	--

<p>事務事業 (予算事業名)</p>	<p>非行・問題行動の防止活動や有害な環境改善活動 (非行防止・環境浄化事業)</p>					
<p>事務事業概要</p>	<p>青少年育成センターや関係機関・諸団体と連携し、防犯・巡視活動を推進する。</p>					
<p>令和3年度の 主な取組 (具体的に)</p>	<p>青少年育成センターにおいて補導巡視活動を実施し、青少年の健全な保護育成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭巡視活動 <p>青少年の非行防止のための補導巡視活動等を実施するため、16地域152名の補導員を委嘱した。</p> <p>青少年育成センター指導員、所員による巡視活動や、防府警察署との合同巡視、各地区補導員による巡視・補導活動を延べ199回実施し、延べ848人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども環境クリーンアップ活動 <p>有害図書類等の設置状況及び深夜営業施設の調査を実施し、青少年を取り巻く環境の浄化を図った。また、携帯電話端末等の販売店における立入調査も行った。</p>					
<p>評価</p>	<p>総合評価</p>		<p>到達度</p>	<p>事業効果</p>	<p>効率性</p>	<p>方向性</p>
	<p>A</p>	<p>12</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>
<p>令和4年度 事業の課題・ 改善点</p>	<p>補導員の巡視が、非行防止のための抑止力になるよう、引き続き関係機関・団体との連携を強化し、青少年の健全育成に努める。また、ウィズコロナ路線へ転換しつつある状況を踏まえ、前年度できなかった合同巡視を再開していくなど、今後は活動の回数を増やしていく。</p>					

事務事業 (予算事業名)	青少年活動の推進 (青少年団体支援事業)					
事務事業概要	青少年の自主性や社会性を培うため、青少年団体が実施する事業の助成やさまざまな活動の支援を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	青少年関係団体や子どもの体験活動を実施する以下の団体に助成を行った。 防府市青少年育成市民会議、防府青年会議所、防府市子ども会育成連絡協議会、防府スカウト協議会、子どもの週末及び長期休業における体験活動等を実施する団体					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	青少年健全育成を促進するため、青少年関係団体の支援を行っているが、子どもの週末及び長期休業における体験活動等が行われていない地域がある。 また、新型コロナウイルスの影響で、活動を予定していたものの、実施できなかった地域も見られた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	継続した活動の支援とともに週末及び長期休業における体験活動を実施する団体のさらなる拡充を図る必要があるため、該当する団体等に対して制度の周知を図っていく。					

事務事業 (予算事業名)	子どもの安全・安心対策 (子ども安全安心対策事業)					
事務事業概要	登下校時などに「不審者からの声かけ」等の被害から、子どもたちの身を守るため避難場所として設置している「子ども110番の家」の拡充を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	「子ども110番の家」の新規登録について、ホームページ等で周知を行った。 防府警察署の生活安全課に「子ども110番の家」の設置箇所情報を提供し、協力を呼びかけた。 劣化した「子ども110番の家」のポール・のぼり旗の購入、交換などを行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	各地区・警察の協力もあり、子どもの安全・安心のための活動として一定の効果があつたと考える。また、取組が広く認知されてきており、今年度は登録件数が増加した。					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	「子ども110番の家」の拡充については、ホームページでの発信・各地区への協力依頼を引き続き行っていく。また、今年度は、地域のコンビニエンスストアに直接連絡を取り、「子ども110番の家」の登録要請をする取組を新たに行う。
------------------------	---

◎ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1) 生涯学習機会の充実

事務事業 (予算事業名)	生涯学習情報発信の充実 (生涯学習活動推進事業)					
事務事業概要	市民の生涯学習意識を高めるため、必要とされる情報を適切に提供する仕組みの充実を図る。 聞いて得するふるさと講座を市民がより活用しやすいものにする。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、市民に生涯学習情報の提供を行った。 聞いて得するふるさと講座を63件実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	生涯学習情報を広報紙やホームページに掲載し、生涯学習情報を市民に提供することができた。 聞いて得するふるさと講座を実施することで、市民の市政に関する理解を深めるとともに生涯学習意識の啓発を図ることができた。 新型コロナウイルスの影響により中止となった講座もあったが、申込件数は昨年度より12件増加した。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、引き続き各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。					

事務事業 (予算事業名)	多様な学習機会の提供 (家庭教育推進事業)
事務事業概要	各年齢期に応じた子育て講座の開催や現代社会が抱える課題から発生するニーズに応じたさまざまな学習活動を支援するための学習機会を提供する。

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	各年齢期に応じた子育て講座の実施 ・就学期子育て学習会(12小学校各1回) ・思春期子育て講座(10中学校各1回、2, 102人)					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	家庭教育力の向上を図るため、各年齢期に応じた学習機会を提供できた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	引き続き、就学期子育て学習会を就学時健康診断において実施し、小学校3校で、家庭教育支援チームによる学習の機会を提供予定。また、持続可能な取組としていくために、各学校PTAとも連携した取組を推進していく。 思春期子育て講座については、学校や地域の特色に応じた講座を開催する。未実施の学校に対して実施を促していく。					

事務事業 (予算事業名)	生涯学習相談体制の充実 (生涯学習相談コーナー管理運営事業)					
事務事業概要	生涯学習相談コーナーの一層の充実及び市民自らが行う生涯学習への支援や啓発に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	生涯学習専門員による学習相談やボランティア講師の紹介、生涯学習情報の提供を行った。(対応件数:829件) 情報紙の発行により生涯学習情報の提供を行った。 子ども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」(年2回発行) ボランティア・協働情報紙「まなぼら」(年4回発行)					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	学習相談では、コロナ禍でありながらも、800件を超える問合せがあり、ニーズに合致した講師や講座を提案するだけでなく、状況に応じて関係機関等の講座や取組を紹介するなど柔軟な対応を行った。 生涯学習情報紙の発行では、コロナ禍のため、取材などに苦慮したが、関係機関と密に連携し、お互いの特色を生かしながら内容の充実に努めた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	近年、学習相談が増加しているとともに学習ニーズが多様化しており、関係機関・団体とのきめ細やかな連携を図ることで円滑な相談対応に努める。					

事務事業 (予算事業名)	産学公民の教育ネットワークの強化 (生涯学習推進会議運営事業)					
事務事業概要	あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の実現に向け、防府市生涯学習推進会議、行政、市民、民間団体、企業、大学等の連携による教育ネットワークの強化を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	防府市生涯学習推進会議を開催し、施策や取組状況の点検、次年度に向けての見直しを行った。また、第3次防府市生涯学習推進計画案の協議を行った。 山口短期大学と協働し、「家庭の日」親子ふれあいイベントを開催した。感染防止対策を講じて3回開催した。(再掲)					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	防府市生涯学習推進会議での第3次防府市生涯学習推進計画案の協議においては、新しい視点からの意見も出され、計画案の作成に寄与した。 「家庭の日」親子ふれあいイベントでは、協働相手の山口短期大学が日頃取り組んでいることから発想を得て、参加したくなるような内容を検討し、11月のイベントでは、新企画として電飾を用いた工作の企画を実施した。その結果、コロナ禍でありながらも、104人という想定を大幅に超える来場者があった。(再掲)					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	連携による成果の検証を十分に行った上で、より高い相乗効果が得られるよう、連携・協働相手の特色や強みを踏まえ、きめ細やかな工夫を取り入れる必要がある。					

(2)生涯学習を支える人材の育成と活用

事務事業 (予算事業名)	生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実 (生涯学習相談コーナー管理運営事業)					
事務事業概要	講師やコーディネーター等の生涯学習指導者やボランティアに研修の場を提供し、育成機会の充実を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	生涯学習ボランティア養成講座を開催した。対象者は放課後子ども教室や放課後児童クラブの関係者とし、内容は身近な材料を使った工作、レクリエーションとした。(参加人数:10人)					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	<p>従来の課題を踏まえ、今年度はより実践的なテーマを設定することで内容の充実を図り、参加者からは好評であった。</p> <p>新たな試みとして、募集チラシの配布を行うことで新規の参加者を得ることができた。</p>					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>参加者の固定化が課題であり、人材の発掘や要請に向けて、参加したくなるようなテーマの設定などの柔軟な取組が求められる。</p> <p>参加者間で技能に差が見られることもあり、習熟度に応じた内容を検討するなどのきめ細やかな対応が求められる。</p>					

事務事業 (予算事業名)	ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用 (生涯学習相談コーナー管理運営事業)					
事務事業概要	ほうふ幸せます人材バンクの指導者及び支援者の登録を促し整備を進めるとともに制度のPRを行う。また、指導者バンク登録者による公開講座の開催により市民への周知と積極的な活用を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>指導者バンク登録者による学習会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止になったものもあったが、学校や公民館、放課後子ども教室などで、154回の学習会が開催された。</p> <p>夏季学ぼうやセミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止としたが、春季学ぼうやセミナー・わくわく学び塾(4講座)は、開催することができた。</p> <p>指導者バンク登録件数:161件 支援者バンク登録件数:1775件</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	<p>指導者バンクについては、夏季学ぼうやセミナーは中止となったが、春季学ぼうやセミナーとわくわく学び塾の開催で市民への周知を図ることができた。</p> <p>支援者バンクについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度より登録者数が減少した。</p>					

令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>指導者バンクについて、より広い分野の新しいボランティア講師の方に登録をしていただくことにより、利用を更に増やしていきたい。そのためには情報収集及び登録等の呼びかけを積極的に行う必要がある。</p> <p>支援者バンクについて、学校や地域の協働、連携につながるよう引き続き制度の周知を図り、登録者の増加に努める必要がある。</p>
------------------------	---

事務事業 (予算事業名)	学習成果発表の機会づくり (生涯学習フェスティバル事業)					
事務事業概要	「生涯学習フェスティバル」の充実を図る。作品展や発表会などの開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供する。 公民館に学ぼうやギャラリーを設置する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	生涯学習フェスティバルを開催した。感染防止対策の観点から会場は防府市文化福祉会館とし、講座や発表会、活動PR(展示)、学ぼうやコンテスト作品展などの企画を実施した。 公民館に学ぼうやギャラリーを設置した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	生涯学習フェスティバルは、コロナ禍でありながらも、20を超える団体・個人からの自主企画講座等の申込があり、当日は400人が来場し、概ね計画どおりに事業を実施できた。 市内各公民館に学ぼうやギャラリーを設置した。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	生涯学習フェスティバルについては、講座によって集客にばらつきがあるため、各講座の会場配置などの工夫が必要である。 学ぼうやギャラリーの展示物の更新や、内容の充実を図る必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援 (社会教育関係団体等育成事業)					
事務事業概要	社会教育関係団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行う。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	社会教育関係団体への活動支援 ・小・中学校PTA連合会及び防府ユネスコ協会に助成を行った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	社会教育関係団体の自主性と主体性を尊重しながら、活動を支援することにより、社会教育の充実を図ることができた。					
令和4年度事業の課題・改善点	引き続き、関係団体の自主性と主体性を尊重しながら、自立につながる支援の仕方を検討する必要がある。					

(3) 人権学習の推進

事務事業 (予算事業名)	市民ぐるみの積極的な推進 (人権学習市民セミナー開設事業)					
事務事業概要	防府市人権学習推進市民会議を中心に市民セミナーや講演会を企画・開催し、市民ぐるみの人権学習を推進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	市民一人ひとりが人権尊重の理念について主体的に学び、人権意識の高揚を図るため、防府市人権学習推進市民会議と連携し、様々な人権問題をテーマに講師を招聘し、市民セミナー、講演会を実施した。 【実施事業】 市民セミナー(3回) 95人(延べ人数) 人権講演会 190人					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	新型コロナウイルスの影響により、市民会議総会での講演会と市民セミナー1回は実施できなかったが、市民セミナー3回と講演会は予定どおり開催した。しかし、市民セミナーは3回とも定員に満たなかった。					
令和4年度事業の課題・改善点	県人権推進指針に沿って分野別人権課題の啓発に取り組むため、市民の関心の低い課題も取り上げる必要があるが、市広報やポスター掲示、企業会報誌へのチラシの折込みなど広報活動に努め、周知を図り集客につなげていく。					

事務事業 (予算事業名)	推進体制の充実 (人権学習推進委員運営事業)					
事務事業概要	人権学習推進委員の研修を充実し、地域、職場、学校、団体等における学習機会の充実を図るとともに公民館を拠点とした人権学習を推進する。					

<p>令和3年度の 主な取組 (具体的に)</p>	<p>人権意識の高揚と啓発活動を担う人権学習推進委員の研修会を企画・運営し、情報交換及び研修を実施した。</p> <p>【実施回数】 推進委員研修会：1回 参加者：23人 教育集会所(大日会館・北山手会館・右田福祉センター・玉祖・宮市福祉センター)で、各種教養講座を実施した。</p> <p>【実施講座】 大日会館 華道、編み物、珠算(子ども) 北山手会館 ペン習字・実用書道、ペン習字(子ども)、珠算(子ども) 右田福祉センター 編み物、珠算(子ども)、和裁 玉祖・宮市福祉センター 手話</p>					
<p>評 価</p>	<p>総合評価</p>		<p>到達度</p>	<p>事業効果</p>	<p>効率性</p>	<p>方向性</p>
	<p>B</p>	<p>11</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>
<p>令和4年度 事業の課題・ 改善点</p>	<p>人権学習推進委員の協力により、所属する地域・学校・団体等において主体的な人権学習会が実施された。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、推進委員の研修会は1回しか実施できなかった。また、教養講座については、多くの講座の開講が6月からとなった。</p> <p>地域や学校、企業、団体等における人権学習会を充実させるため、研修会への参加者を増やす必要がある。</p> <p>新たな講座開設に向け、地域への周知や働きかけを行う必要がある。</p>					

<p>事務事業 (予算事業名)</p>	<p>人権学習への支援 (人権学習推進事業)</p>
<p>事務事業概要</p>	<p>人権学習指導員の派遣や視聴覚教材の充実など、市民の主体的な人権学習を支援する。</p>
<p>令和3年度の 主な取組 (具体的に)</p>	<p>市民の主体的な人権学習の支援を行うため、地域や学校、企業、団体等で実施される学習会に、人権学習指導員及び社会教育主事を派遣、又は人権学習啓発のための視聴覚教材の貸出を行った。</p> <p>【派遣回数】 人権学習指導員の派遣 47回</p> <p>【貸出実績】 視聴覚教材(DVD・ビデオ) 98本</p>

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	地域や学校、企業及び団体の主体的な学習会に、人権学習指導員の派遣や視聴覚教材の貸出等の支援を行った。新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、派遣回数、貸出ともに増加させることが出来た。貸出については2倍以上となった。					
令和4年度事業の課題・改善点	地域や学校、企業、団体等における主体的な人権学習会の開催を増やすため、人権学習支援について PR、特に企業に対する働きかけを行う必要がある。					

(4)生涯学習の拠点となる施設の充実

事務事業 (予算事業名)	公民館の整備・充実 (公民館・学共管理業務)					
事務事業概要	緊急度の高い順に整備及び修繕等を実施しており、引き続き計画的に適切な維持管理を実施していく。 小野公民館建設工事 ルルサス防府への文化福社会館の一部機能移転					
令和3年度の主な取組 (具体的に)	小野公民館について、令和4年度の供用開始に向けて、建設工事及び備品等の整備を行った。 文化福社会館の一部機能移転に向けて、ルルサス防府の一部を取得し、改修工事に着手した。 他の公民館においても、経年劣化による施設設備の修繕を随時行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	必要な補修、改修を実施し、適切な維持管理に努めることができた。					
令和4年度事業の課題・改善点	緊急度の高い順に補修や改修を行う。 ルルサス防府への文化福社会館の一部機能移転に向けて、運用方針等を決定する。 牟礼公民館の移転建替えに向け、用地の取得、基本設計・実施設計を行う。					

事務事業 (予算事業名)	公民館活動の推進 (公民館活動推進事業)					
事務事業概要	公民館における学習情報の発信に努めるとともに、自治会や関係団体等との連携・協働による多様な学習の場の提供を行う。					

令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>公民館事業である家庭教育学級・女性学級・高齢者教室について、公民館だよりやホームページ等による情報発信を積極的に行い、官公庁や民間の団体等に講師を依頼し、多様な学習の場を提供した。</p> <p>より魅力的な事業内容となるよう研修会を実施し、また、各公民館の情報を共有できるよう定期的に会議を開いた。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
令和4年度 事業の課題・ 改善点	<p>公民館だよりやホームページ等により情報発信し、また、様々な団体等に講師を依頼することで多様な学習の場を提供できた。</p> <p>発信する情報の充実に努める。また、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、実施する。</p>					

外部評価者 の 意見	<p>全般に着実な成果をあげている。</p> <p>「家庭の日」親子ふれあいイベントでは、山口短期大学との協働により内容を検討し、新しい企画を実施するなどした結果、コロナ禍にあっても多くの来場者を得ている。また、ほうふ幸せます人材バンク登録者による学習会も多数開催し、市民に貢献するものとなっている。評価したい。</p>
外部評価者 の 意見	<p>地域協育ネットの改善点である複雑な校区編成に関しては、取り組み方以前に小学校区（公民館ベース）に根底から改める必要があると思う。</p> <p>社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援は活用希望団体を増やしコロナ後の取組を有効的に活用してほしい。</p>
外部評価者 の 意見	<p>コロナの影響で実施できない事業もあるが、この状況下でも工夫して実施している事業は今後も続けてほしい。</p> <p>地域協育ネットについては、現状維持、若しくはそれ以上の推進をお願いしたい。</p> <p>公民館の充実は今後もっと必要になってくるため、正職員が不在の公民館へ職員の配置が望まれる。</p>

〔4〕文化財課

◎ 基本方針

文化財保護意識の高揚と普及を通じて郷土の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、市民共有の財産である文化財の調査や保存・活用に努め、後世に伝えていく。

また、市内各地の文化財を総合的に把握し、市民生活やまちづくりに活用するとともに、文化財情報の発信に努める。

◎郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

(1)文化財の保存

事務事業 (予算事業名)	文化財の保存・修理 (文化財保護管理事業、史跡菰往還三田尻御茶屋(英雲荘)保存修理事業、宮市本陣兄部家保存整備事業、有形民俗文化財保存修理事業、英雲荘運営事業)					
事務事業概要	重要な文化財の指定や登録を行い、保全に努めるとともに、傷んだ文化財の修理や文化財のより良い保存環境の整備を進める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	旧毛利家本邸において、令和2年7月豪雨により被害を受けた奥土蔵屋根の復旧事業を実施した。 周防国分寺旧境内において、平成30年7月の豪雨により被害を受けた二ノ門と土塀修復について、調査や調整を行った。 宮市商参会館解体に伴い、文化財的調査と保存作業を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3	3
	旧毛利家本邸奥土蔵復旧事業は令和2年度から継続実施し、文化財的価値の保存に努めてきたが、令和3年7月完工した。 周防国分寺の二ノ門と土塀修復については、令和4～8年度(5か年)に渡る保存整備事業として計画的に実施する見通しを立てた。 宮市商参会館については、解体に際して建築構造や技法の記録を行い、重要な部材を取り外し保存するなど、商参会館の文化財的価値を後世に残すための措置を可能な限り実施した。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	保存修理を必要とする物件が多く、また新たな案件も上がってきて順番待ち状態となっている。緊急性を加味しつつも限られた予算との調整を図ったうえで優先順位を定め、計画的に進めるよう努める。					

事務事業 (予算事業名)	文化財調査の継続 (周防国府跡等発掘調査事業、緊急発掘調査受託事業)					
事務事業概要	指定文化財の巡視や社寺所有の未指定文化財の把握調査を継続して行う。 埋蔵文化財の発掘調査を計画的に実施し、下右田遺跡・車塚古墳の解明に努める。					
令和3年度の ち主な取組 (具体的に)	下右田遺跡北東部で遺構保存を目的とした計画調査を実施した。市役所敷地及び下右田にて本調査を実施した。 開発に先立ち、確認調査を市内15か所にて実施した。このうち3か所で令和4年度に本調査を実施する予定である。この他、工事立会に起因する緊急調査を4件実施した。 発掘調査報告書は令和2年度国庫補助事業にて調査したものを1冊、民間開発事業に伴うものを2冊刊行した。 未指定文化財の悉皆調査は平成25年度から継続中である満願寺所有資料の調査をはじめ、2件約3,000点の調査を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	9	2	2	3	2
令和4年度 事業の課題・ 改善点	発掘調査出土品・民俗資料・歴史資料等について文化財郷土資料館・青果市場・競輪局に保管しているが飽和状態だった。令和3年度に新たな保管場所として旧大内ライスセンター及び富海倉庫を利用できることとなったが、競輪場のリニューアルに併せ競輪局保管の資料を旧大内ライスセンターに移動させたため、そちらは飽和状態となった。よって今後に備えて新たな保管場所を検討していく必要がある。 市内一円の遺跡内で宅地造成を目的とした開発以外に太陽光発電建設を目的とする開発等が増加しており、民間の開発を待たせる状況が続いている。職員が常時確認調査に対応せざるを得ない状況となっており、今後の遺跡内での大規模公共事業計画を踏まえ、専門員の増員が必要である。					

事務事業 (予算事業名)	文化財保護活動への支援 (文化財活用事業)					
事務事業概要	各種団体が行う文化財保護活動や郷土誌刊行等を支援する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	防府史談会の文化財保護啓発活動に対して補助金を交付した。 郷土誌刊行については富海および西浦の団体に対して補助金を交付した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	防府史談会はコロナ禍のなかでも、できる限りの文化財保護啓発活動を継続している。 郷土誌については令和2年度には刊行がなかったが、各種相談に応じる等の対応の結果、令和3年度には2団体における刊行があった。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	防府史談会が行う文化財の保存活用のための調査・研究等の活動に対しては、今後も継続して支援する。 郷土誌に関しては、今後も郷土史研究団体からの相談に応じるとともに調査活動を行う等、積極的に研究成果の刊行を支援していく必要がある。					

(2)文化財の活用

事務事業 (予算事業名)	文化財情報発信の充実 (文化財活用事業、英雲荘運営事業)					
事務事業概要	インターネット等を活用した文化財情報の発信に努める。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	年17回公式サイトを更新した。 重源生誕900年に関連した市広報への記事連載、ケーブルテレビ出演等も実施した。 英雲荘の観月会では、コロナ禍での新たな取り組みとしてオンライン配信を行い、その後、夜間公開を実施した。 また、防府歴史・文化財読本の刊行(紙媒体)準備を進めた。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	観月会のオンライン配信等は非常に好評だった。 防府歴史・文化財読本は令和4年3月末にその内容を確定させた。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	情報の発信手段について、より広い範囲で検討する必要がある。また発信する情報は、より興味を引く内容を盛り込み、きめ細かく発信していく必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	文化財郷土資料館の充実 (文化財郷土資料館運営事業)					
事務事業概要	文化財郷土資料館を情報発信の拠点として、文化財や歴史資料の収集・保存と公開を行い展示内容の充実を図るとともに、施設改修やソラールとの連携強化などに取組、活用を促進する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	エレベーター・空調設備の改修を中心に、資料館の改修を行った。 重源生誕900年記念としてスポット展を実施した。 また常設展示のうち1階のフロア展示、2階の親子コーナーを全面的にリニューアルし、2階展示室には映像コーナーを設けた。 ソラールの企画展『ふゆめ展』に出品し、資料館でも連携展示を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	資料館の改修工事により来館者の利便性及び館内の印象が向上した。 令和3年度は館内外の改修やコロナ対応での休館日等も多かったが、前年度に比べ入館者数は僅かに増加した。 年間入館者数843人、臨時休館5/13～6/5、8/28～9/26					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	令和4年度は10月2日まで企画展を行い、その後の常設展は内容をリニューアルする予定である。ソラールとの連携企画は夏休み期間およびソラール冬の企画展に合わせて実施する予定である。 効果的な情報発信を行うとともに、観光イベント等との連携を充実させることが必要である。					

事務事業 (予算事業名)	文化財を活用した事業の実施 (文化財活用事業)					
事務事業概要	市指定有形民俗文化財「末田の窯業生産工房及び登窯」を活用し、焼物文化継承事業を実施する。 無形民俗文化財を地域や学校と協力して未来へつなぐための取組を支援する。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	「末田の窯業生産工房及び登窯」で指定文化財の本質的価値を擁する設備・用具の寄付を受け、文化継承の活動環境が整った。 無形民俗文化財の継承活動に対する補助金制度を創設した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	末田で予定したイベント等はコロナ対策で中止となったが、学校花壇の囲繞素材等を焼成するために協働で窯焚きを実施した。 無形民俗文化財伝承活動への補助金制度に対する反響は大きく、予定の10団体を上回る11団体の申請があり、そのうち9団体に補助金を交付した(2団体はコロナ禍により事業中止)。					
令和4年度 事業の課題・ 改善点	「末田の窯業生産工房及び登窯」を多くの人が活用できる場となるように環境整備と体制づくりを推進し、壺まつりの開催等、魅力の発信を行っていく必要がある。 無形民俗文化財伝承活動への補助金制度をしっかりとPRし、各団体へ積極的かつ継続的な活動を促していく必要がある。					

事務事業 (予算事業名)	英雲荘の整備と公開 (史跡萩往還三田尻御茶屋(英雲荘)保存修理事業、英雲荘運営事業)					
事務事業概要	歴史的遺産の価値を伝えるため、庭園の復元整備や周辺整備を進め、積極的なPRに努めるとともに、本館を文化・芸術活動のために貸出すなど広く公開し、活用を図る。					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	10年間に及ぶ庭園の復元整備が完了し、計画範囲における国史跡の整備事業が終了した。目標としていた「庭屋一如」の景観が蘇ったことを記念するイベントして観月会を催行しオンライン配信を行った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	<p>整備後の行き届いた日常管理が功を奏して来訪者の評価は良好である。観月会のオンライン配信や庭園の夜間公開等のイベントも好評だった。</p> <p>本事業は、全国的にみても、保存・管理・活用のバランスを調整して歴史文化の価値を継承する良い事例となっている。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>関係する人材等との交流を一層深めながら、英雲荘の魅力を、最大限に発信できるように事業展開を行っていく必要がある。</p>					

事務事業 (予算事業名)	歴史・文化の学習機会の提供 (文化財活用事業)					
事務事業概要	<p>文化財郷土資料館主催の講演会や体験学習、市民ボランティアと連携し市内の文化財や歴史遺産の見学会、発掘調査の現地説明会、公民館等での講座や講演会を実施する。</p> <p>市民の学習活動の中で、文化財や歴史資料の提供を行う。</p>					
令和3年度の 主な取組 (具体的に)	<p>インターンシップを2校4名受け入れた。</p> <p>自治会や学校主催等の講座や見学会に対して、11回講師を派遣した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>コロナ禍によりイベントや見学会・学習会、インターンシップ等の開催が中止になったケースもあり、例年に比べ実施数は減ったが、依然として申し込みは多く、ニーズは高い。</p>					
令和4年度事業の課題・改善点	<p>文化財の保存継承のためには、子ども達へしっかりと伝えていくことが重要である。</p> <p>オンライン授業等、ICTを活用した学習に対応した体制の整備・強化が、必要である。</p>					

<p>外部評価者の意見</p>	<p>昨年度よりも総合評価が高くなっている事業が多く、堅実な努力を評価したい。例えば、文化財保護活動への支援については、コロナ禍にあっても努めて各種の相談に応じ、その結果、2団体が郷土史を刊行している。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>保管場所などの問題は、文化財や出土品の多い防府市ならではの問題であると思う。保管場所に関しては、学校により使用していない教室など有効的に活用し、しっかり保管していただきたい。その取組の中で、児童生徒にも改めて文化財への意識を持ってもらえるのではないかと感じる。</p> <p>文化財、出土品をデジタル保存し、児童生徒が持つタブレットを活用し学習機会の提供につなげていただきたい。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>事業全体で、前年度に比べて事業効果及び到達度が上がっていることは評価できる。</p> <p>各種団体への文化財保護活動に対する支援は、団体だけではなく、個人の文化財保護活動にも支援できると良い。</p> <p>文化財郷土資料館のPRがもっと必要と思われる。</p>

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口大学大学院 教育学研究科 佐々木 司 教授

【意見】

防府市教育委員会の「教育行政点検・評価報告書（対象：令和3年度事業）」について意見を述べさせていただきます。

防府市教育委員会は、「第2次防府市教育振興基本計画」に基づき、21世紀をたくましく生き抜く人材の育成を基本目標として、重点施策を掲げたうえで、各種事業を展開している。いわゆるコロナ禍にあって、思うように事が運ばないこともあったであろうが、よく工夫・努力され、関係機関の協力も得ながら、着実に教育行政を進めておられることに対して賛辞を送りたい。

特に、文化財課は、前年度比で総合評価が上昇した事業が多い。できる限り郷土の文化・伝統を継承し、そこに新たな試みを加えていこうとされていることが伝わってくる。課としての事務事業の数は多くないが、積極的な姿勢を感じ取ることができる。

掲載されている事務事業の数としては、学校教育課のそれが最も多い。未来を切り開く存在である児童生徒に対して、バランスのとれた教育活動を地域とともに推進し、安全・安心な教育環境づくりが期待されている。同課が取り組むべき事業が増えることは当然であろう。

ただ、学校教育課の事業のなかには、このたび新規に加わったものがいくつかあるうえに、ICT関連の事業も多く、点検・評価の対象事業が、やや拡散傾向にある印象も受ける。そのあたりを整理、構造化され、説明がなされれば、市民にとってもよりわかりやすい報告書になるのではないかと思われる。

このような気づきはあるが、防府市の教育行政は良好に執り行われており、その点検・評価も適切なものであると認められる。今後も市民の教育のさらなる充実のため、引き続き堅実に創造性ある教育行政の展開を期待したい。

